

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276400071		
法人名	医療法人社団 清怜会		
事業所名	グループホーム紅葉の家(1号館)		
所在地	静岡県袋井市萱間944番地1		
自己評価作成日	平成26年8月10日	評価結果市町村受理日	平成26年10月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2276400071-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成26年 9月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に恵まれた環境で、地域のボランティアの方の協力を受けて畑を耕し、年間を通して色々な作物を作り、収穫体験したり、メニューに入れ美味しく食べています。地域の人々と行事に参加したり、招いたりして交流しています。お花見をしたり、散歩をしたりと自然を満喫しています。1号館では入居者様が何か言いたい事や悩み事があれば、その都度話を聞くように心がけています。自分から言えない入居者様には、こちらから声かけし話し相手になっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は自然溢れる広々とした環境の中にあり、平屋3棟の入居者は毎朝敷地内を散歩している。手押し車や入居者を乗せた車いすを押しながら、少し勾配のある道を歩き、お互いに笑顔で声を掛け合っている。日常の介護は何事も試してみたら改善する方法で支援している。ある程度管理が可能な入居者の数人が居室に冷蔵庫を持ち込み、好みの物を食することができるので食べたい物の要望は少ない。本人や家族と話し合い食事強制することなく、自分の食べたい物を食べて自宅にいるように自由に過ごしている。毎月入居者個々の健康状態、バイタル、往診での結果、日頃の様子に写真も載せた「紅葉便り」を家族に送付している。近所の方がボランティアで畑を耕し、野菜や花を植え継続して面倒をみてくれて運営推進会議にも参加している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念 2276400071					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「思いやりの介護で笑顔がいっぱいの家」の理念を頭に入れ、職員が一人ひとり笑顔で向き合っている。	理念は事務所と職員用トイレに掲示しており、職員は常に見て、職員会議や朝礼時に法人の理念と一緒に唱和し浸透している。個別の入居者の思いをくみ取り、一日を笑顔で過せるように支援し実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	紅葉の家の行事を地域の方々に参加してもらったり、逆に地域の行事には参加させてもらったりと交流をしている。	町内の方がボランティアで敷地内の畑を整備し野菜や花を植えていて、入居者も一緒に収穫して食卓に上っている。事業所の前で畑をしている人と挨拶を交わし野菜のおすそ分けがある。老人会の役員、会員の来所がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の勉強会を開き、地域の方に認知症の事や、認知症の人の思いを理解してもらえよう声掛けしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一回開催している。包括職員、自治会、入居者様のご家族、地域の方々と交えて、色々な話をし情報交換している。	年間計画を立て、奇数月に老人会の会長や会員も毎回出席して開催している。写真付の活動報告や、現状報告をし、参加者から多々意見が出て充実した会議になっているが、出席する家族が固定化している。	方策を講じ、家族の参加を促し、更により良い運営推進会議になっていくことに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居者の受け入れ等に、常に市の担当者と連絡を取り、今の施設の取り組みを知らせている。	市介護課へ会議の議事録を持参し、空き状況の相談や情報を伝えて関係を築き、5月には始めて運営推進会議に参加があった。地域包括主催の介護研究会が2ヶ月に1回、市主催のグループホーム情報交換会が年2回あり他の事業所と交流している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について勉強している。基本的に拘束はしない。玄関も施錠していない。	玄関他施錠はなく自由に出入りが可能で、以前入居者が外に出て数時間戻らないことがあり、以後個々の情報を把握し、時間で担当者を決め責任を持って見守りするようになった。法人研修、内部研修を行い、拘束の理解は浸透している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について勉強会をしている。常に心にとめて言葉使いや態度にも気を付けている。		

静岡県(グループホーム紅葉の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が勉強会にて学び理解している。又、忘れないよう今度も勉強会にて繰り返し学んでいく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族から疑問があれば、その都度説明し納得して頂けるようしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見を聞く、意見箱を設けたり、運営推進会議などで利用者や家族からの意見を聞いたりしている	職員が面会時に家族から話を聞き取りリーダーに報告している。「手紙のやり取りをしたい」の要望に父の日母の日にハガキを出す支援、「買い物に行きたい」は月1回買い物支援、誕生日は月にまとめず個別に意見を聞き、当日に祝う等ケアプランに入れ反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、職員会議を開き、職員の意見を出してもらい、運営に反映させている。又、他の施設の職員と、情報交換もしている。	職員は意見要望・相談等をリーダーに話し、リーダーから館長に伝えて応えてくれる仕組みができています。職員からの意見で、入居者が一人でポツンとすることなく安全に過ごせるように、職員が個別に担当と時間を決め責任をもって見守ることで連携が取れ安心して過せている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格を持つことで給与に反映され、やりがいを持ち向上心を持って働けるようしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループ内での研修に参加したり、外部の講習会や講演会になどにも参加できるよう、情報を提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	館長は他の施設の職員会議にも参加したり、又他の施設と職員同士の交換をしたりして良い所を取り入れてる。		

静岡県(グループホーム紅葉の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今分からないことや、心配事や本人や家族の要望等に耳を傾けられるようしている。じっくり話し合い安心して生活できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	最初に家族の困っていることや、不安な事をしっかりと伺い、それに伴ってケアプランを作成し、問題を解決できるよう家族とも情報を共有している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今までの生活の様子をよく伺い、安心して生活できるよう支援している。ここでのサービスで不足と思われる方は他のサービスを利用している入居者様もいます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活の中で、家事など今までやってこられた事を職員と一緒にやっている。入居者から職員が教わったりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の日常の様子や体調などを、月に一度手紙で知らせている。又、家族来設時にもその時の様子を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や顔馴染みの方が来設されたり、地区の行事にも参加したりと、関係が途切れないよう努めている。	以前住んでいた近所の人や友人の訪問がある。家族が連れて美容院やマッサージに継続して行っている人がいる。入居期間が長くなり、1号館～3号館の入居者同士が行事や毎日の散歩時に交流して、馴染みの関係になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆で散歩へ出て、他館の方々あいさつや会話をしたりして関わり合いをしています。レクリエーションで各館同士の交流もしています。		

静岡県(グループホーム紅葉の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要があれば情報支援、連携支援等の対応をしている。袋井ケアセンターに移動された方には会えば声掛けしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント時に本人、家族の意向を聞き、日常会話から思いを汲み取るようしている。聴覚に不自由がある入居者には、筆談やジェスチャーを使って意向の把握をしている。	本人・家族からの意向や、日常の会話の中から若い頃のこと等聞き取ったことを法人のアセスメントシートに書き足している。入居者は職員を呼び止めて「居室で悩みの相談」をして思いを伝えている。誕生日の祝いは本人の希望に副って検討し実行されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前のアセスメントで知り得なかった情報を、日々の会話の中から伺い、モニタリングを定期的に行う事で暮らしを把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの様子を介護経過や介護記録に記入し現状の把握をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランや担当者会議等に本人、家族、職員が参加し、入所者のニーズを考え、より良い生活を送れるよう皆で取り組んでいる。	担当者会議に本人・家族が参加し意見や要望を検討する。入院等状態の変化があれば随時変更し、変化がなければ年に1度更新している。3か月毎のモニタリングには入居者も参加して、本人の視点に立ったケアプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	心理状況や健康状態等で気付いた事を、介護経過に記入し介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入所者の要望に対して、全館職員が協力し柔軟性を持って対応している。例えば、買い物に出かけたり、誕生日を祝ったり、できるだけ、その利用者のやりたい事を聞き、サービスに反映している		

静岡県(グループホーム紅葉の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加し、楽しく生活できるようにしている。地域の方の協力の元、畑を作り、作物を育て収穫を楽しんだりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に一度往診をし、家人に伝えている。担当医のある方は家人と一緒に受診して頂き、内容や薬等伺い対応してる。	15名が協力医に変更している。12名は馴染みの主治医に家族と受診して、対応が困難な時は職員が家族と一緒にいる。他科への受診は家族が同行し結果は聞いている。緊急時は必ず家族に連絡し、状態を伝えるため職員も同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回ケアセンターの看護師に来てもらい、入所者の様子を伝えている。入所者が自ら相談もしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入所者が入院した際にこちらの情報を伝えている。又、入院中の様子を教えてもらっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	心身の状態の変化を家族に報告し、医療連携をしたり、他の施設への移動なども共に考え行っている。	食べられなくなった、身体的に特殊寝台が必要になった等状態が変化してきたら家族と話し合いをしている。事業所では医療的な対応は困難な旨の方針を伝え、隣にケアセンターもあり、これからの提案をして家族の意向を聞いている。常に館長は入居者の状態に気を配り職員に伝えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会や研修会に参加し、救命救急に役立つよう定期的に勉強している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回訓練をし、職員全員が避難方法を覚え実行できるようにしている。夜勤帯や日勤時の災害も考え訓練している。	2回の訓練の前後に準備と反省の自主訓練もを行い、主として職員1人の夜間想定訓練をしている。元消防署勤めの自治会長から、懐中電灯の数は多い方が良い、個別の顔写真を用意するように等アドバイスをもらっている。運営推進会議で、地域の方も参加して職員が入居者になったの訓練を行っている。	

静岡県(グループホーム紅葉の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合わせた声掛けをして対応している。プライバシーにも配慮し対応に努めている。個人的な話は居室で行っている。	朝礼時に毎週法人からくる接遇の注意事項を読み上げ、研修も行っている。不適切な発言を聞いたときは館長はその場で注意している。トイレ誘導は耳元でそっと声をかけ、長い話は居室で聞くなど人間関係に配慮した対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	3ヶ月に一度モニタリングを行い、本人の気持ちや希望を聞いて介護に生かしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースで毎日過ごされています。職員もそのペースを乱さぬように見守っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔な身だしなみ、外出時のおしゃれなど一緒に考え、出来ない方には手伝い、身なりを整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの好みや量を聞き、提供している。料理の下ごしらえや片付けを手伝ってくれている。	翌日分の食材が届くと入居者と一緒に食材チェックをしている。メニューに職員がアレンジを加えて調理し、刻み・とろみ等状態に合わせた対応をしている。2か月に1度本部から行事食のお弁当が届き入居者の楽しみになっている。配膳やテーブル拭き等できる範囲で参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量チェックしている。一人一人の状態に応じて調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方は自分で行っている。そうでない方には必ず口腔ケアを行い、口腔内の清潔を保持している。		

静岡県(グループホーム紅葉の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、排泄のパターン把握をしている。声掛けや誘導をし、トイレで排泄できるよう支援している。	入居時おむつ使用している方も排泄パターンを知り、職員が把握し連携を取って声掛け誘導することで、殆んどの人がリハビリパンツや布パンツに移行し、全員がトイレで排泄している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を見て、便秘の方には水分を多く摂ってもらったり、体操や散歩をして便通を促すようしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回している。入る順番を変え平等に入浴できるようしている。又、その人の体調に合わせ、無理な入浴はしていない。	1日おきにお風呂を沸かし、午後2時から3名の職員が連携し、浴槽に浸かる、身体洗う、着脱支援や見守り声掛けをして全員が入浴している。体調によってシャワー浴や清拭の事もあるが、特に拒否する人はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間ぐっすり寝て頂けるよう、日中の活動量を多くしている。又、外へ出て外気浴したり生活のリズムが整うようし支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが内服している薬の情報を、職員が共有し誤薬のないよう確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの体調や生活歴に合った、ゲームやレクリエーションを行っている。又、家事を進んでやってくださる方もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	誕生日に合わせて、本人の要望に沿った外出援助をしている。又、月に一度買い物援助も行っている。	天候を見て毎日1号館～3号館の入居者は敷地内の程よい勾配のある通路を散歩している。広い敷地内で花を見ながらお弁当を食べることがある。家族と外食や買い物に出かけている。家族の協力もあり、5月に3号館では花博へ日帰り旅行に出かけている。	

静岡県(グループホーム紅葉の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望があれば、月に一度お金を使っての買い物援助を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の要望があれば、その都度電話を掛けられるようしている。行事で往復ハガキを使用し、手紙のやり取りをした。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除をし、清潔を保っている。季節感を味わってもらえるよう、掲示物を作成しています。和やかな雰囲気の中、心地よく過ごせるよう環境を整えている。	自然に囲まれ、季節で鶯や虫の音が聞こえる。窓から花や畑の野菜が見え季節感を常に感じることができる。掃除が行き届き清潔が保たれていて、冬場は加湿器、洗濯を干す等して加湿に留意している。食事やレクリエーションをする机の他テレビの前に大きなソファが2つあり、ゆったり過ごせる空間がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファと椅子とそれぞれ好きな所を選び、座ってもらっている。一緒に話をしたり、テレビを見たりできるよう居場所づくりをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れたタンスや、馴染みの品々を居室へ置いて心地よく過ごせるようしている。	仏壇・テレビ・ドレッサー等が持込まれ、大きなモナリザの絵や、壁一面に本人の作品が飾られた部屋もある。冷蔵庫を置いて好きな飲み物やおやつを入れている人もいて、職員はさり気なく中を確認している。緊急時を考慮し車椅子利用の部屋は車椅子マークを掲示している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	体操等で廊下を往復したり、手すりを利用し立ち上がりの運動している。できる事は自分でやれるように職員見守りの元、行ってもらっている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276400071		
法人名	医療法人社団 清怜会		
事業所名	グループホーム紅葉の家(2号館)		
所在地	静岡県袋井市萱間944番地1		
自己評価作成日	平成26年8月10日	評価結果市町村受理日	平成26年10月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kai gokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2276400071-00&PrefCd=22&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成26年 9月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

恒例の夏祭りも5年目です。子供会、老人会の方々とも馴染みとなり地域の交流も広がっています。花壇作りも始めています。うぐいすは長い季節さえずりまた鳴いていると耳を傾け、梅、桜の花を愛でお花見を楽しみます。深い山々に囲まれ山の色の変化やイチョウ、紅葉の樹で四季を感じることができ静かで自然豊かな環境です。館内の散歩では山の神様に色々なお願いを個々にし帰りに畑の野菜の成長を観察し合いながら一日が始まります。ボランティア方の支援で畑づくりも本格的にとなり色々な野菜が毎年収穫できるようになりました。2号館では季節ごとのレクリエーション他、入居者様の誕生日には意向を聞いて、その思いに沿うような個別サービスと全員でのお祝いを企画してやっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念 I-2276400071					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「思いやりの介護で笑顔いっぱいの家」運営理念であり一人一人に対して生き生きとした表情が引き出されるよう日々努力している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りも恒例になり今年で5回目を迎え子供会、老人会を招待し毎年工夫している。地元中学生の職業体験を受け入れその後も来設交流ある。ボランティアの畑と一緒にやっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症養成講座を開催し地域の方、ご家族の方に向け認知症の人の理解や支援方法を知ってもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2か月毎に開催し今年より市職員も参加して頂き報告をし又意見を取り入れサービスの質の向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員の来設2回、運営推進会議では市職員、包括の職員が毎回出席して下さり色々な相談に乗っていただき協力して取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当施設は身体拘束0をかかげている。日中玄関の施錠を含め身体拘束はいっさいありません。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会、法人全体のAA課程テキストが月一回あり勉強し、学ぶ機会があり言葉づかいや虐待には注意をしている。職員会議では接遇がテーマとなっている。		

静岡県(グループホーム紅葉の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会で学び理解していますが今現在活用の必要な方はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	変更前には個々に印刷物を配布し了承して頂いている。理解し納得頂けた時点で正確に伝えたことも記録している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家人来設時には近況を報告し信頼関係を築きながら意見や要望など聞いている。又、ケアプラン作成時には「入居者様本位」を心掛け常にご本人様を気遣っていけるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議は毎月開催している。職員の意見提案できるまでには至っていない。今後の別の会議を設け色々な意見が飛び交うようにしていきたい。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得で給与に反映されている。チームリーダーをワンクッションにやりがいなど把握し、働きやすい職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の勉強会で職員が講師となり自己研鑽に努めている。法人内の研修が色々あり参加している。又法人外の講習に意欲的に参加されている方もいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員会議に他施設の館長が出席し、意見や情報を得ている。法人内の研修で交流し視野を広めサービスの質の向上に取り組んでいる。		

静岡県(グループホーム紅葉の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時に訪問し、ご本人とご家族様の意向を聞きだせるように努めている。入所後も不安な事、要望等を聞きだせるよう関係づくりを大切にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の困っている事、不安な事を話し合い少しでも不安が解消できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今までの生活スタイルを聞きだし本人ご家族様が今一番必要としている支援を見極めご本人が望む生活ができるよう心掛けて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事はご自分でやって頂いている。出来ないことを出来るように一緒に手を貸したり声かけしてやり遂げるように援助している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の報告書を送付し、近況の把握をして頂いている。来設時にはご本人の思いを伝え話す機会を作りご家族様と同じ視点でご本人を支えて関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前からの馴染みの場所を利用されている方もおり、その時は必ずご家族様が付き添い出掛けられたり知人宅へ寄られたりされることもある。又知人が訪ねてくださる場合もある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の状態を把握して仲良し同志が支えあえるよう職員が間に入り関わり合い、支え合える様に支援している。		

静岡県(グループホーム紅葉の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	系列の施設に移転入所された方などは近くまでいけば会いにいたり声を掛けたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	3か月ごとのモニタリングで重点的に掘り下げて聞き何を望んでいるか把握に努めている。困難な場合には日々希望、意向を丁寧に聞き対応している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	普段の生活の中から話をしていき情報収集をしている。又家人との話しの中からも収集し、職員全員が周知できるように記録をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者には日々の生活の中でいろいろな事にチャレンジしてもらっている。一人一人の様子を介護経過に記入し現状を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時やモニタリング時は再度現状把握に努めその時にあったプラン変更している。本人や家族の同席の上意見、アイデアを交換している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様のその日の心理状態、健康状態、気づいたこと等を介護経過に記入し介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに敏感になり対応できるようにサービス内容を変化させたり支援やサービスを取り入れている。		

静岡県(グループホーム紅葉の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の催し物や行事に参加している。ボランティアの方々による歌や踊り等も招いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の往診があり緊急時には対応して頂いている。入所前からのかかりつけ医に受診している入居者様もあり本人、および家族様の希望を大切に支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回巡回があり日常の変化や情報に気付いたことを伝え相談したり指導を受けている。入居者様自ら質問をしたりもしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にはケア要約を送り、確認していただいている。定期的に訪問をし、状況把握に努め、病院関係者との関係づくりに力を注いでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期については、早いうちからご家族様と話し合いを行い施設での生活を十分に説明するとともに併設施設と連携しあう事で支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命の講習を受け、再度勉強会に取り上げ全職員周知している。その後の入職職員にも徹底的に勉強し実践力を見に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害を想定し特に夜間帯に力を入れ年に2回以上行っている。又、毎年12月1日の地域防災の日には所在確認に地域の防災担当の方にきてもらっている。		

静岡県(グループホーム紅葉の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを守りながら自尊心や羞恥心に配慮している。言葉づかいは丁寧を心掛け楽しい会話になる様にしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常日頃から利用者様の声に耳を傾け又気軽に利用者様から相談が出来るような信頼関係を築ける様に職員で気をつけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は勤務中であっても入居様の要望や用事には手を止めてしっかり聞いてあげれる様にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容、着替えなど出来る範囲でやって頂いている。できない部分は介助して入浴時には好みの洋服を選んでもらい時節にあった様に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作成時に好みの料理を取り入れたり2週間に1度はパン食であったり要望を取り入れている。材料の仕分けや準備、食器拭き等職員と一緒にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算された食材を仕入れ調理し、温かい状態で提供している。毎食時の味噌汁とお茶、10時、15時のお茶の時間で確保できている。個人個人でもペットボトルなどですぐ飲める様お茶などを携帯している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分でできる方には毎食後の口腔ケアをお願いしている。介助の必要な方は夕食後歯磨きと入れ歯の洗浄を介助しながら行っている。		

静岡県(グループホーム紅葉の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	6名が布パンツで生活されている。排泄パターン把握の為チェック表を活用し必要時にはトイレ誘導し、トイレで排泄出来る様支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎食事に味噌汁プラスし10時、15時のお茶と水分量には常に気を配っている。毎日朝の健康体操、天気の良い日は館内の散歩、個別の運動など取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回午後2時～4時前までの時間帯で入浴を実施している。入浴中はその人その人に合わせ、十分くつろげるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣を大切に、その時々状況に応じ自由に生活している。居室に行き休息したり時には時間を決めて臥床したりと疲れないことを意識している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、副作用、用法、用量について理解して誤嚥、誤薬のない様職員一人一人が常に気をつけ支援している。又症状の変化の確認についても注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日のプランであったり体調に合わせてできるお手伝いの声かけをさせて頂いている。月1回のレクリエーションや個人の誕生日会を開催し気分転換や楽しみを増している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	その日の希望にそって戸外に出かけることはあまりできないが、誕生日には希望を聞いてそれに沿い叶えている。時にはご家族様にも協力してもらいながら行っている。地域の行事がある際には参加している。		

静岡県(グループホーム紅葉の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小口現金を預かっている。必要に応じて買い物支援をしている。ご自分でお金を所持し、買い物を依頼してくる入居様がいる場合一緒に買い物に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	母の日、父の日の為に往復ハガキを使用して書く事、返事がくることの喜びの支援をした。又、電話は希望があればいつでもかけて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除をし清潔を保っている。湿度にも気を配るようにし暑さはよしずで直射日光を取り入れない様、自然な風でエアコンに頼らない工夫を取り入れている。食事中は集中して頂く為にテレビを消している。又、掲示板には季節に合った物を手作りしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になりたい時は居室に行きテレビをみたり横になったり自由になっている。気の合う同士で思い思いに話し合える場所をもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までのご自分の部屋と同じ配置になるようにし馴染みで大切なものを持ってきて頂くよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	時間がかかってもご自分で出来る事はやって頂いている。今までやっていなかった事も何でもやってもらいご本人様から「やるよ」との声を引き出せるようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276400071		
法人名	医療法人社団 清怜会		
事業所名	グループホーム紅葉の家(3号館)		
所在地	静岡県袋井市萱間944番地1		
自己評価作成日	評価結果市町村受理日	平成26年10月27日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kai gokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2276400071-00&PrefCd=22&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成26年9月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

3号館は皆さんお話好きです。季節感を感じてもらえる行事を通して、今がどんな季節で、昔のその時期には何をしていたのか思い出して頂き、常に楽しく会話ができるよう心がけています。
一人一人が 個性的ですので、個々の個性を尊重しながらも、レクリエーションや行事をする際には 皆で協力してやる事が出来、達成感を入居者様、職員皆で味わえる館です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「思いやりの介護で笑顔がいっぱいの家」と言う理念を念頭に置き、入所者様に接する時はいつも笑顔で接し、レクリエーション等を通して入居者様の笑顔を引き出せるようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りやイベントには入居者様と一緒に参加している。又地域の美化運動や草刈りにも事業所として参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で「認知症サポーター養成講座」を開催し、地域の皆様に声をかけ、参加して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に運営推進会議を開催し、自治会長、老人会長、民生委員、ご家族様から意見や希望を伺い、実施できることは行うようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市職員や包括の方が参加していただき、状況報告をしている。何かあれば連絡を取り合いアドバイス等頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしてはいけないことを勉強会等で学び、周知徹底している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間の勉強会の中に取り込んでいる。言葉による暴力には特に気をつけ、笑顔で、落ち着いた対応を心掛けている。		

静岡県(グループホーム紅葉の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間の勉強会の中に取り込んで皆で学んでいる。今現在制度を必要とする方はこの施設では居ない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に施設の見学や説明をしている。入居時に契約に関する説明をし、疑問や質問がないかを伺っている。改定時には電話連絡時に説明し、来設押印時再度説明をして理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の来設時に意見や要望をお聞きするようにしてる。また「ご意見箱」を設置している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回の職員会議で職員の意見や提案を聞いている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職務、給与の疑問に関しては「給与、勤務疑問110番」が設置されていて、質問に答えてくれる。個々にスキルアップすることで給与に反映される。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修に参加希望があればシフトの調整をしてくれる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員会議に他の施設の館長も出席し、意見や提案をしてくれる。個々での研修等で交流ができ、意見交換している。		

静岡県(グループホーム紅葉の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に訪問し顔馴染みになっていただく事で、ご本人の要望や不安等を聞き出すことに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の困っている事や不安、要望などを言って頂けるように施設の考えや方針を説明し、お互いの信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今までの生活を尊重しながら「その時」必要な事や困っている事をコミュニケーションを取りながら見極め支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を共にするものとして、出来る事は一緒にいき、良い家庭的な関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1度のお便りに近況報告を記載し、来設時や電話連絡時も様子を伝え、本人の思いをお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙や電話を利用し、いつでも連絡が取れるように支援している。また地域行事にも参加している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや散歩、畑での野菜の収穫を通して3ユニットの全ての人が関わり合える様に努めている。		

静岡県(グループホーム紅葉の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	移転先近くに行ったときには顔を見に行ったり、家族とあった時には声をかけ近況をお聞きするなどしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランを立てる時には必ず本人、家族に意向を聞いている。その思いに沿える様にプランを作成している。意向を聞き取れない場合は本人の思いを汲み取れるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族とのコミュニケーションもよく取れ、生活歴や暮らし方、生活環境の話もでき、今までの暮らしてきた状況の把握がほぼ出来ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人が好きな事や、やりたい事ややって頂き1日を過ごしている。変化があれば必ず介護経過に記入し、職員全員が把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活していく上で課題やケアの在り方を職員間で話し合い、本人、家族に確認してプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画とずれが生じた場合は職員全員で話し合い情報を共有し、本人、家族とも話し合い現状に合った介護計画を立て直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限り出来る事は個別対応して取り組んでいる。このユニットでは旅行に行きたい方が半数ほどいたため、日帰り旅行も実施した。		

静岡県(グループホーム紅葉の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	秋祭り、イベント、そば祭り等に出かけ交流を図っている。施設内の畑に来てくださるボランティアの方にも声掛けしたり、一緒に手伝ったりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1度の往診の他緊急時に対応してくれる。他科への受診が必要な際は必ず職員が付き添い現状を説明し適切な処置が受けられるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師がおおよそ1週間に1度来設し健康状態等を診てもらっている。その時の状況、気づきを伝え適切な指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時に情報提供をしている。必要があれば病院に行き、様子を見たり、看護師に相談等して良好な関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居した早めの時期に施設で出来る事、出来ないことを伝え、連携の老健や他施設もあることを伝えチームで支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会等で学び実践できるようにしている。運営推進会議でAED救急法を実施した。特に急変のありそうな方は事前に把握している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施している。それに伴い、その前後に確認と反省を踏まえ行っている。連携の老健職員にも参加と共に協力体制が取れている。		

静岡県(グループホーム紅葉の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格や気質を把握し、言葉掛けに気をつけ、笑顔でゆっくりとした口調で対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思い、考えを聞き入れるように心がけ、いつでも話せる環境づくりをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の得意な事や好きな事を把握した上で、その日に何をしたいかを伺い1日を過ごして頂けるように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分でその日の洋服を選べる方は選んでいただき、出来ない方には職員が選んで、ご本人に確認して頂いている。また洗いまわしは必ず常に有る物の中から選んで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜などをきれいにしたり、切る事が出来る方には、簡単な準備を手伝って頂いている。食器洗いや、食器拭きは当番制にして順番でやっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材のカロリー計算はされている。食事量の少ない方や、食欲不振の方には栄養補助食品で補っている。食事の形態も個々に合わせ提供し、食べやすい工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの声かけをし、介助し清潔を保っている。毎食後が難しい方には、入床前は必ず職員と一緒にしている。		

静岡県(グループホーム紅葉の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、1人1人の排泄パターンを把握し、早めに声掛けして失敗が少なくなるように誘導している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	10時15時の水分補給時に水分を多く摂るように声掛けし、歩行可能な方は腸内活動が活発になるように、なるべく歩行をして頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日の入浴希望があるか尋ねた所、毎日では疲れるからと言う意見もあり、1日おきに週3回入浴を実施している。みかんの皮を入浴剤代わりに使用し、香りも楽しんでいる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の体調に合わせ、居室で1~2時間臥床したりする場合は季節によってエアコンで温度管理をし、気持ちよく休めるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬剤情報表に目を通し薬の用法や副作用等を理解し、内服時は誤薬を防ぐ為名前を確認をしっかりとっている。内服薬の症状の変化があれば看護師に相談し、必要があれば医師との連携を取っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割があり、必要とされている事は嬉しい事なので、その方が出来るお手伝い(食器拭きや洗濯物たたみ等)をして頂いている。また歌を歌ったりゲームなどのレクリエーションをして、気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人からの希望があれば、職員が同行して買い物に行っている。個々の誕生日に行きたい所があれば、ご家族様にも声掛けし、協力してもらい出掛けている。実家へ行きお仏壇へお参りした方もいる。		

静岡県(グループホーム紅葉の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを預かっているので、職員と一緒に外出し、自分で支払いが出来る方は、支払いをして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、電話をしている。往復はがきを出し、近況や想いを伝え、母の日や父の日に合わせて返信して頂き、返事を楽しみに読んだ。身内の方と1月に1回ぐらい手紙のやり取りをしている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関の施錠をせず、廊下には障害物もなく、開放的なホール。居室の温度管理にはエアコンや加湿器扇風機で対応しています。季節が感じられる掲示物を飾ったりしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合うもの同士でいつも話ができるように席の配置を考えている。また一人になりたい方はいつでも部屋へ行けるように居室に施錠はしていない。ホールでも一人でいれる場所も確保してある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用していた馴染みの家具や、自分の使い慣れた物をご家族にお願いし準備して頂いている。自分が使いやすい配置にして、心地よく過ごせるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールの出入り口の扉はいつも開放してある。ホールから各居室が見渡せるようになっていて、廊下には手すりが設けてあり、自立歩行の助けとなっている。		